



永井 良三 (NAGAI Ryozo)

東京大学 名誉教授
自治医科大学 学長

東京大学医学部医学科卒業。
医学博士。

東京大学医学部附属病院内科研修医から、同医学部附属病院第三内科医員、米国バーモント大学留学 (Visiting Assistant Professor (Department of Physiology & Biophysics))、東京大学医学部附属病院第三内科講師、助教授、群馬大学医学部第二内科教授、東京医科歯科大学 難治疾患研究所客員教授、東京大学大学院医学系研究科 (循環器内科) 教授 (2003 年から 2007 年まで、東京大学医学部附属病院長を兼任) を経て、2012 年 4 月より現職。

専門は、臨床循環器病学、血管生物学。循環器疾患発症の分子機構の解明と治療法の開発、医療データベースの開発を主要研究テーマとし取り組む。日本内科学会、日本循環器学会、日本心臓病学会、日本動脈硬化学会などの学会に所属。また、政府審議会等では、厚生労働省 社会保障審議会医療部会長、文部科学省ライフサイエンス委員会委員長、内閣官房健康・医療戦略推進専門調査会座長などを務める。

主な著書に、『医学生とその時代 増補改訂版』(中央公論新社、2015)、『実験医学増刊 Vol.34 No.5 ビッグデータ 変革する生命科学・医療』(共著、羊土社、2016)、『医と知の航海』(永井良三監修・著、自治医大総合教育編、西村書店、2016)、

“A heart–brain–kidney network controls adaptation to cardiac stress through tissue macrophage activation” Nat Med in press;

“KLF5 regulates the integrity and oncogenicity of intestinal stem cells.” Cancer Res 74: 2882-91, 2014;

“Cardiac fibroblasts are essential for the adaptive response of the murine heart to pressure overload.” J Clin Invest 120: 254-65, 2010;

” SUMOylation of Krüppel-like transcription factor 5 acts as a molecular switch in transcriptional programs of lipid metabolism involving PPAR-d. Nat Med 14:656-666, 2008”、

など、国内外で病気の分子機構に関する多数の著書や論文がある。

日本心臓財団 佐藤賞 (1982)、ベルツ賞 (1998)、持田記念学術賞 (2000)、日本動脈硬化学会賞 (2002)、日本医師会医学賞 (2006)、紫綬褒章 (2009)、高峰譲吉賞受賞(2010)、欧州心臓病学会金賞(2012)など、数々の受賞歴を持つ。